

## 遷延性意識障害患者のゴマの摂取による肝機能の変化

松浦 晋士<sup>1</sup>、金田 憲司<sup>1</sup>、片岡 恵美子<sup>1</sup>、足立 幸枝<sup>1</sup>、八木 良子<sup>1</sup>、萬代 眞哉<sup>2</sup>、梶谷 伸顕<sup>2</sup>、市川 正之<sup>3</sup>、衣笠 和孜<sup>2</sup>

<sup>1</sup>独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 看護部、<sup>2</sup>独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 診療部、<sup>3</sup>独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 検査部

【目的】頭部外傷患者は抗痙攣剤をはじめ様々な薬剤を内服せざるをえないことが多く、副作用の為に肝臓機能障害がおりやすい。今回、人体に影響の少ない食物で、酸化ストレスを消去する強い抗酸化作用を示し、肝機能を増強するといわれているゴマに着目しその効果について評価した。【方法】遷延性意識障害患者で肝機能改善薬内服者もしくは肝機能検査（GOT・GPT・r-GPT）の数値が基準値より上昇している男性5名（20～63歳）に8週間、10g/日のゴマの投与を行い、投与前・中・後に肝機能および酸化ストレスの指標としてDiacron-Reactive Oxygen Metabolites(d-ROMs)、抗酸化力の指標としてBiological Antioxidant Potential(BAP)を測定し統計解析を行った。【結果】ゴマ投与後、全例に肝機能障害の改善は認められた。d-ROMs、BAPの値は様々で酸化ストレスの軽減、抗酸化力の増強は明らかでなく、統計学的に有意差を認めなかった。【考察】ゴマに含まれるセサミンは肝臓の分解機能を高め、またr-トコフェノールはゴマリグナンの作用によって過酸化脂質の生成を抑制し、酸化ストレスを軽減するといわれている。今回の酸化ストレスおよび抗酸化力を測定する検討では、それを直接裏付ける結果は明らかにできなかったが、ゴマを投与した症例では肝機能障害の改善がみられており、今後更に症例数を増やし検討する必要があると思われた。